

# 技 術 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成 21 年度病害虫発生予察技術情報第 2 号

## 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ）

### 新世代の発生量及び果樹園への飛来時期について

8 月後半以降は果樹カメムシ類が越冬成虫から新成虫に入れ替わる時期となります。  
 現在、新世代は主にヒノキきゅう果上に生息し、きゅう果が餌として好適な間はきゅう果上にとどまっていますが、吸汁が進むときゅう果が餌として不適となり、ヒノキから離脱し果樹園へ飛来します。  
 今後の発生について下記のとおり予想されますので、園への飛来に注意願います。

#### 記

- 1 新世代の発生量について
  - (1) 8 月下旬に実施したヒノキきゅう果のピーティング調査の結果、1 枝当たりの寄生虫数は 1.66 頭（平年 0.92 頭）で平年よりもやや多い（表 1）。
  - (2) 7 月上旬に実施したヒノキきゅう果着生状況調査の結果、県内 14 地点の平均着生量は 2.4（平年 3.1）で平年よりやや少ない（表 1）。
  - (3) 新世代の発生量はヒノキきゅう果の着生量との相関が高く、9 月以降の発生量は平年並と予想される。
  - (4) 予察灯（諫早市小船越町）における誘殺数は、8 月 2 半月以降平年並に推移している（図 1）。
  - (5) 県予察圃場のかんきつには 9 月 1 半月に飛来が見られている。

表1 ヒノキのきゅう果におけるカメムシ類の寄生状況（平成 21 年 8 月 25、27 日調査）

寄生虫数 (頭/枝)	チャバネアオカメムシ					ツヤアオカメムシ					合計	きゅう果 着生量
	成虫	老齡	中齡	若齡	計	成虫	老齡	中齡	若齡	計		
平成 21 年	0.80	0.22	0.26	0.17	1.46	0.08	0.04	0.08	0.00	0.20	1.66	2.4
平年値	0.33	0.19	0.13	0.13	0.78	0.11	0.03	0.01	0.00	0.14	0.92	3.1

(注 1) 寄生状況はピーティング調査により行った。

(注 2) きゅう果着生量は平成 21 年 7 月 6 日及び 13 日に、着生程度を 5 段階(多:5、やや多:4、中:3、やや少:2、少:1)で達観調査し、平年値を平成 20~13 年及び 8~9 年の平均とした。

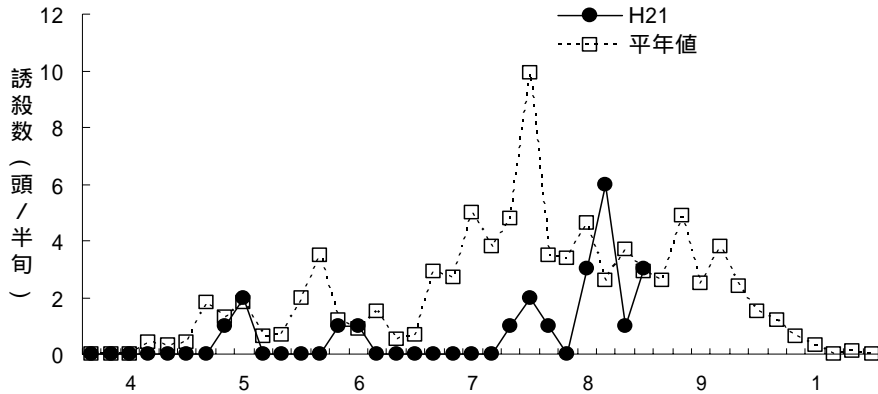


図1 予察灯による果樹カメムシ類誘殺数の推移 (西諫早)

## 2 果樹園への飛来時期について

7月24、30日に採集したヒノキきゅう果の口針鞘数調査の結果、果樹園への飛来時期は以下のとおり予測される(表2、図2)。

表2 各地域の果樹園への予測飛来日

地域名	口針鞘数	予測飛来日	地域名	口針鞘数	予測飛来日
諫早市多良見町東園	4.1	9月1日	東彼杵町赤木	0.1	9月15日
長与町岡	1.8	9月9日	佐世保市針尾	2.0	9月8日
時津町子々川	3.7	9月2日	佐世保市宮	3.2	9月4日
西海市西彼町小迎	2.6	9月6日	雲仙市瑞穂町伊福	2.6	9月12日
〃 西海町木場	3.2	9月4日	〃 国見町百花台	1.1	9月18日
諫早市長田	3.6	9月8日	南島原市有家町新切	1.6	9月16日
大村市今村	3.6	9月8日	〃 北有馬町下内中尾	1.6	9月16日

(注1) 各地域毎きゅう果30果を採集し調査した。

(注2) 1果当たりの口針鞘数が25を超えるとカメムシはヒノキきゅう果から離脱する。

(注3) 予測には福岡県農業総合試験場が作成した予測式を利用した。

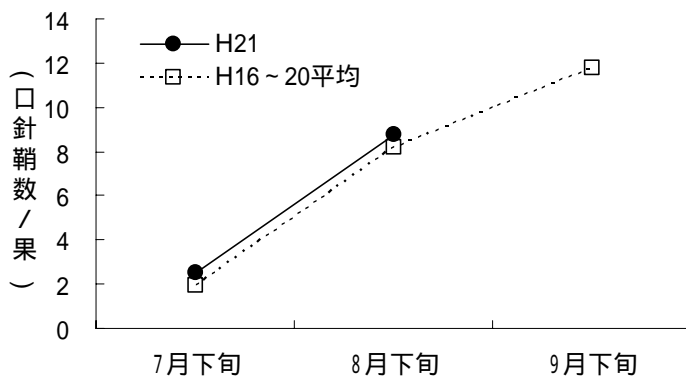


図2 ヒノキきゅう果における口針鞘数の推移

## 3 防除上注意すべき事項

- (1) 上記の予測飛来日を参考に園の見回りを徹底し、飛来が見られたら早急に防除を行う。
- (2) 飛来時期や飛来量は、同一地区内でも園によって異なる場合があるので注意する。

---

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027